

琴の音

樋口一葉

青空文庫

(上)

空に月日のかはる光りなく、春さく花のゝどけさは浮世万人お
 なじかるべきを、梢のあらし此処(こゝ)にばかり騒ぐか、あはれ罪な
 き身ひとつを枝葉ちりちりの不運に、むごや十四年が春秋を雨に
 うたれ風にふかれ、わづかに残る玉の緒の我れとくやしき境界に
 たゞよふ子あり。

母は此子(この)が四つの歳、みづから家を出で、我れ一人苦をのがれ
 んともあらねど、かたむきゆく家運のかへし難きを知る実家の
 親々が、斯く(か)甲斐性(かひしやう)なき男に一生をまかせて、涙のうちに送

らせん事いとほし、乳房の別れの愁(つ)らしとても、子は只(ただ)一人なるぞかしと、分別らしき異見を女(をな)子(こ)ごゝろの浅ましき耳にさゝやかれて、良(を)人(と)には心の残るべきやうもあらざりしかど、我が子の可愛きに引かれては、此子の親なる人をかゝる中に捨てゝ、我が立さらん後はと、流(さす)石(が)に血をはく思ひもありしが、親々の意見は漸(やう)く義理(やう)の様(やう)にからまりて、弱き心のをしきらんに難く、霜ばしら今たふれぬべきを知りつゝ、家も此子も、此子の親をも捨てゝ出でぬ。

父は一人ゆきたることもあり、此子を抱きて行きたることもあり、これを突きつけて戻りたることもあり、我れは此(この)ま(の)朽(くち)はてぬとも、せめては此子を世に出したきに、いかにもして今(ひと)一(ひと)たび

戻りくれよ、長くとは非ず今五年がほど、これに物ごゝろのつきぬべきまでと、頼みつすかしつ歎(な)げきけるが、さりとも子故に闇なるは母親の常ぞ、やがては恋しさに堪えがたく、我れと侘(わび)して帰りぬべきものをと覚(おぼつか)束なきを頼みて、十五日は如何に、二十日は如何に、今日こそは明日こそはと待つ日空しく過ぎて、はては尋ね行きたりとて、面(おもて)を合はする事もなく、乳母にや出(いで)けん、人の妻にや成りけん、百年の契りは誠に空しくなりぬ。

斯(か)くて半年を経たりし後は、父もむかしの父に非ずなりぬ、見かぎりて出(いで)にし妻を、あはれ賢こしと世の人ほめものにして、打(うち)すてられし親子の身に哀れをかくる人は少なかりき、夫(そ)れも道理、胸にたゝまるもやゝの雲の、しばし晴るゝはこれぞとばかり、

飲むほどに酔ふほどに、人の本性はいよいよ暗くなりて、つゆ
ゆく我意(が い)の何(いづこ)処(い)にか容れらるべき、其(そのとし)年の師走には親
子が身二つを包むものも無く、ましてや雨露をしのがん軒もなく
成りぬ、されども父の有けるほどは、頼む大樹のかげと仰ぎて、
よしや木ちんの宿に蒲団はうすくとも、温かき情の身にしみし事
もありしを、夫(それ)すら十歳と指をるほどもなく、一とせ何やらの祝
ひに或る富豪(ものもち)の、かゞみを抜いていざと並べし振(ふるまひ)舞の酒を、
うまし天の美祿、これを栞(しを)りに我れも極楽へと心にや定めけん、
飢へたる腹にしたゝかものして、帰るや御濠の松の下かけ、世に
あさましき終りを為しける後は、来よかし此処へ、我れ拾ひあげ
て人にせんと招くもなければ、我れから願ひて人に成らん望みも

なく、はじめは浮世に父母ある人うらやましく、我れも一人は母ありけり、今は何(いづこ)処(こ)に如何なることをしてと、そゞろに恋しきこともありしが、父が終りの悲しきを見るにも、我が渡辺の家の末をおもふにも、母が処業(しわざ)は悪魔に似たりとさへ恨まれける。

父は無きか、母は如何にと問はるゝ毎(ごと)に、袖のぬれしは昔しな

りけり、浮世に情なく人の心に誠なきものと思ひさだめてよりは、

生(なまなか)中あはれをかくる人も、我れを嘲(あざ)けるやうに覚えて面(つら)にくし、

いでや、つらからば一筋につらかれ、とてもかくても憂(うきみ)身の

はてはとねぢけゆく心に、神も仏も敵とおもへば、恨みは誰れに

訴へん、漸(やうやう)々尋常(なみ)ならぬ道に尋常(なみ)ならぬ思ひを馳せけり。

おどろに乱れし髪のひまより、人を射るやうなる眼のきらきら

と光るほかは、垢あかにまみれし面おもかげの、何いづこ処こにはいかならん
好きよ処こありとも、凡たゞ人びとの目に好しと見ゆべきかは、恐ろしく
気味悪く油断ならぬ小僧と指さゝるゝはては、警察にさへ睨まれ
て、此処の祭礼かしこの縁日、人山きづくが中いまに忌うたがひはしき疑うたがひを受
けつ、口をしや剪すり兇りよ盗人と万人にわめかれし事もありき。

人の眼はくもりたるものにて、耳は千里の外までも聞くか、あ
やまり伝へたる事は再度きえず、渡辺の金吾は誠まことの盗も賊のに成りぬ、
やがては明治の何と肩がきのつくべきほど、おそろしがらるゝ身
かへりて恐ろしく、此処を離れて知らぬ土地に走らんと思ひたる
事もあり、恨みに堪えかねては死なばやと思ひたる事もあり、幾
度水のおもてに臨みて、これを限りと眺めたる事もありしが、易

きに似て難きものは死なりけり。

捨てはてし身にも猶衣食のわづらひあれば、昼は(そこ) 処となく

さまよひて何となく使はれ、夜は一処不住の宿りに、かくても夢
は結びつゝ、日一日とたゞよひにたゞよひて、過(すぐ)しゆくほどに、
脊たけと共にのびゆくは、ねじけたる心なるべし。

(下)

御(おぎやう)行の松(ふく)に吹かぜ音さびて、根岸田(たんぼ)甫(おくて)に晩稻かりほす

頃、あのあたりに森江しづと呼ぶ女あるじの家を、うさんらしき
乞食小僧の目にかけてつゝ、怪しげなる素(そぶり)振あるよし、婢(はした)

女(め)ども気味わるがりて咄(ささや)き合ひしが、門の扉(あけ)の明くれに用心するまでもなく、垣(し)に枝だれし柿の実ひとつ、事もなくして一月あまりも過ぎぬるに、何時(いつ)となく忘れて噂も出(なり)ず成しが、主(あるじ)の女(さと)が敏(さと)き耳には、少しあやしと聞かるゝ事あり、秋雨しとくと降りて物あはれなる夜、ともし火のもとに独り手馴れの琴を友として、あはれに淋しき調べ(もてあそ)を弄びつゝ、上野の森に聞えいづる鐘の、さりとは更けぬるかなと、さしおきて聞けば、軒ばを伝ふ雨しだりのほかに、梢をゆるする秋風の外に、物のけはいの聞ゆる様なること度(たび)かさなりぬ。

軒ばに高き一もと松、誰れに操(ひとり)の独(ひとり)栖(ずみ)ぞと問はゞ、斯道(これ)にと答へんつま琴の優しき音色に一身を投げ入れて、思ひをひそめ

しは幾とせか取る年は十九、姿は風にもたへぬ柳の糸の、細々と
 弱げなれども、爪箱とりて居ずまゐるを改たむる時は、塵のうきよ
 の紛雜みだれも何ぞ、松風かよふ糸の上には、山姫きたりて手やそふら
 ん、夢も現もうつつ此うちにとほゝ笑みて、雨にも風にも、はたゝめく
 雷電にも、悠然として余念なし。

頃は神無月はつ霜この頃ぞ降りて、紅葉の上に照る月の、誰が
 砥(と)にかけて磨(みが)きいだしけん、老女が化(けはひ)粧(ま)のたとへは凄し、天
 下一面くもりなき影の、照らすらん大(たいか)廈(や)も高樓も、破屋わらやの板
 間の犬の臥(ふしど)床も、さては埋(う)もれ水人(みづ)に捨てられて、蘆(あし)のかれ
 葉に霜のみ冴ゆる古宅の池も、笕(かけひ)のおとなひ心細き山(いほ)した庵も、
 田のもの案山(かがし)子も小溝の流れも、須磨も明石も松島も、ひとつ

光りのうちに包みて、清きは清きにしたがひ、濁れるは濁れるま
 にく、八面玲瓏一点無私のおもかげに添ひて、澄(すみ)のぼる琴のね
 何処までゆくらん、うつくしく面白く、清く尊く、さながら天上
 の楽にも似たりけり。

お静が琴のねは此月此日うき世に人一人生みぬ、春秋十四年雨
 つゆに打たれて、ねぢけゆく心は巖のやうにかたく、射る矢も此
(ここ) 処にたちがたき身の、果(はて)は臭(しうがい)骸を野山にさらして、父が末
 路の哀れやまなぶらん、さらずば悪名を路傍につたへて、腰に鎖
 のあさましき世や送るらん、さても心の奥にひそまりし優しさは、
 三更月下の琴声に和して、こぼれ初(そ)めぬる涙、露の玉か、玉なら
 ば趙氏が城のいくつにも替へがたし、恋か情か、其人の姿をも知

らざりき、わづかに洩れ出る柴がきごしの声に、うれしといふ事も覚えぬ、恥かしさも知りぬ、かねては悪魔と恨らみたる母の懐かしさ、へ身にしみて、金吾は今さら此世のすて難きを知りぬ、月はいよく冴ゆる夜の垣の菊の香たもとに満ちて、吹くや夜あらし心の雲を払らへば、又かきたつる琴のねの、あはれ百年の友とや成るらん、百年の悶へをや残すらん、金吾はこれより百花爛の世にいでぬ

青空文庫情報

底本：「新日本古典文学大系 明治編 24 樋口一葉集」岩波書店

2001（平成13）年10月15日第1刷発行

初出：「文學界 第十二號」文學界雜誌社

1893（明治26）年12月30日

※括弧付きのルビは校注者が加えたものです。

入力：土屋隆

校正：noriko saito

2007年8月9日作成

2013年10月13日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

琴の音

樋口一葉

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>